

Cluster analysis defines four groups of Japanese patients with adult-onset Still's disease

クラスター解析により日本人成人発症スチル病は4つのグループに分けられた
白濱 裕梨

成人発症スチル病 (AOSD) 患者について年齢、性、臨床所見、検査値など12の項目を用いたクラスター解析を行い4つのグループに分類しました。

- ▶ クラスター1 (典型群、39%) : 若年女性が多く、合併症は少なく、フェリチン著明高値 (>10,000ng/ml) 例は少ない。
- ▶ クラスター2 (重症群、18%) : 若年男女が多く、マクロファージ活性化症候群 (MAS) や DIC が多く、フェリチン著明高値例が多い。
- ▶ クラスター3 (非典型群、9%) : 若年男性。定型疹は少なく、脾腫やリンパ節腫脹がなく、合併症も少なく、フェリチン著明高値例も少ない。
- ▶ クラスター4 (高齢発症群、35%) : 60歳以上の女性が多く、定型疹は少なく、漿膜炎などの合併症が多く、フェリチン著明高値例が多い。

生存率はクラスター4で低い傾向があり (P=0.0539)、ドラッグフリー寛解率もクラスター4に比べてクラスター1~3が高いことがわかりました (ハザード比、クラスター1 : 2.19、クラスター2 : 3.37、クラスター3 : 3.62)。またクラスター2とクラスター4はともに重症度が高いのですが、前者ではドラッグフリー寛解率が良好なのは興味ある点でした。AOSDは臨床像や予後に関して多様性に富む疾患であり、このような病型分類の試みが今後の診療の一助となることを期待しています。

<https://doi.org/10.1093/mr/roae023>

